

平成19年4. 5月大樹通信巻頭言

- 『1、失敗を恐れないー失敗の向こうに必ず成功がある
2、シンプル イズ ベストー真理はいつもシンプルである
3、感謝する心を失わないー謙虚さがある所に感謝と愛が生まれる』の心を持って

園長 高杉美稚子

私の一番好きな花、サクラも満開、平成19年度の始まりです。私は春、この時期が一番大好きです。今日ここに新しい園児、保護者の方を迎えて、新メンバーで新年度がスタート出来る事を心よりうれしく思います。きっとこのメンバーである必要があって、この仲間が今、ここにめぐり合ったのです。そのことに心から感謝致します。この一年のありようで実りはいかようにもなると考えます。だから、この仲間であったことに感謝して、自分に謙虚に精一杯生きていきたいと思っています。

今年も年度当初にあたり吉塚幼稚園の教育方針について確認したいと思います。

本園の教育の三つの柱は

- 1、「教育は真の自立への援助の道」
2、「教育は感動と思い出を作ること」 3、「教育は知ることの喜びを与えること」です。

そしてこの教育は

- 1、共育ー自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」、
2、響育ー感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
3、驚育ー知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。私は、教育は決して「競育」や「狂育」「脅育」であってはならないと考えます。感性に裏付けられた知性こそが本当の知恵であって、ただの知識で終わってはならないのです。美しいものを美しいと思う純粋な心、あるがままの自分を認められる素直な心、自分と同じように他を認められる謙虚な心を大切に出来る人達になってほしいと願っています。

吉塚幼稚園が考える教育の循環

「自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「自分が大好きで、自分が信じられる」教育です。

この教育は、日々の保育の中で、そして、自主選択保育を通して進めていくことが大切です。子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、いつ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。

自分で自分を律する（セルフコントロールできる）ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要」です。この体験は教師にも必要です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。この「セルフコントロールできる子どもに育てることー自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達

とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在

そしてこのかかわりの中で、育てるのが心の教育です。『心の教育とは』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。なぜそうしたほうが良いのかを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。「なぜ」を教えないとルールだけを守る人間になると考えています。

そのためにはどんな教師・親の教育集団であつたらよいのでしょうか。

そのことを[A・B・C・D・E]で考えてみましょう。

「A」はAspire、こころざしです。期待とか不安がはじめてからこの世に存在しているわけはありません。全てが自分の心の問題です。自分に不安があるから、相手の不安を感じるのです。全ては自分の捕らえ方、考え方、受け止め方次第です。こころざしを見つけて、前向きに一生懸命生きましょう

「B」Believe、信頼です。自分、子ども、まわりに人全てを信じましょう。「個別性と共感」お互いに独自の人格を尊重しあい、相手にも独自の生き方を許す心があって初めて良い人間関係が成り立つのです。

「C」Commit 具体的に計画を練り、予算も人も配分するという意味です。教育においては、今何が大切かということを確認しながら、どう進めていったらよいかという計画一見通しを立てることなしに進めることはできません。その為に、洞察力が必要です。その為には、感覚の鋭敏性も養いましょう。

「D」Do 最後は行動です。一番に重要なことは、行動をまず試してみることなのです。まず小さな行動を起こすと、その行動が呼び水になってやる気が起きます。まず自分から行動を起こしましょう。「行動しないで後悔するより、行動して反省する人になりましょう。

最後に「E」Enjoy。自らを信じて、徹すれば、その場、その場ではつらいことがあっても苦を苦と感じず、明るく楽しくやっていけるのが人間、社会的動物なのです。

そしてそのことを達成する為に必要なことを、私は今年は三つ大切にしたいと思います

1、 一つ目は、失敗を恐れないことー失敗の向こうに必ず成功があります。

ナポレオンは『我輩の辞書に不可能は無い』といったそうですが、彼の業績の三分の一は失敗でした。でも、彼は失敗ではなく、成功したほうに目を向けたのです。彼は自分が好きで、自分を最後まで信じられたから、劣等感を持たなかったのです。劣等感を持たなかったから、成功に目を向けられたのです。

「失敗をする人は、失敗をするから劣等感を持つのではなく、劣等感を持つから、失敗した方だけに目を向ける」のです。そして限りなく落ち込んで、自分の人生はすべて悪いものだと思ひ、暗くしていくのです。

「成功をする人は、劣等感をもたないからこそ、たとえ失敗があっても、その失敗を教訓に、成功したことだけに目を向けることが出来て、プラスの方に目と考えを向けて、自分の人生を明るくしていく」のです。

人生には必ず、失敗も、成功も、マイナスも、プラスの面もあります。失敗の失敗の失敗の連続の先にあきらめなければ、必ずゴールという成功があるのです。自分にうそをつかず、最後まであきらめず、努力すれば、そのゴールが最初、目指したゴールと違っていても、自分に納得がいく新たなゴールが見つかるのです。

だから、最後の瞬間まで、自分を信じ、あきらめない心を持つことが大切です。そのためにも自分を大好きになる教育が大切なのです。

2、次に、シンプル イズ ベストです。一長い間、勉強してきてたどり着いたことは、いつものような真理もシンプルであるということです。人間は言い訳したり、自分にうそを言ったり、ごまかしたり、混乱したり、自分に正直でないとき複雑になります。自分の感情に気づいて行動し、自分に正直であるときシンプルで理解しやすいような気がします。だからどんなときも「シンプル イズ ベスト」を心がけていきたいのです。そのためにも見る力、聴く力の観察力と感じる力の感性の感覚の鋭敏性を持つことが大切です。

3、三つ目に、感謝する心を失わないことー謙虚さがある所に感謝と愛が生まれるからです。

そのために人と自分に言葉のご馳走をしたいものです。何度いっても言い過ぎではありません。

感謝の言葉ーありがとう、ごくろうさま、苦勞が吹き飛びます。

相談する言葉ーあなたはと思う？相談されればいやな気はしません

期待の言葉ーきっとできるよ。勇気がわいてきます。

激励の言葉ーがんばってね。やる気が出ます

信頼の言葉ー大丈夫、まかせたよ。元気と自身がわいてくる。

ほめ言葉ーよくやったね。積極性が出てきます。

6つの黄金の言葉ご飯を毎日食べるように毎日ご馳走しましょう。言葉は使っても減らない大事な宝物です。

自分にもプラスの言葉をかけましょう。暑い、疲れた、苦しい、おもしろくない、つまらない、頭がいたい、気分が悪いという言葉をいつも自分にかけていると、本当にいやな結果がやってきます。よかった、楽しい、うれしいと思うと、結果もそうなります。

顕在意識が感じたものが直ちに潜在意識に影響して生活機能も同じようになります。その言葉の良し悪しによって生きる力も良くも悪くもあります。人間は暗示にかかりやすい動物です。何気なく吐いた一言でも、気がつかないうちに自分や相手の潜在意識に働きかけてそのとおりの状態を引き起こします。前向きな言葉を使いましょう。つらいといっていると本当につらくなります

つらいことがつらいとしか感じられない、苦しいことが苦しいとしか感じられないのは、そこに楽しみを見出していないからです。どんなことでも好きになってしまうように努力してみましょう。好きなことは楽しいです。楽しいことは疲れません。楽しいと感じられる自分にするのは自分自身です。私達が活着していると実感するのは、楽しい時間を過ごしているときです。だから、好きになったものが勝ちです。そうすれば可能性も開けてきます。ただ、息をしているだけでは活着しているとはいえません。

自分の好きなことをして、それで、なおかつ人のために役立つことが本当に生きていることではないでしょうか？おだててもいけない、偽ってもいけない。でも人は期待に答えて生きていくことを忘れてはいけません。言霊で信じあう心をお互いに作っていくことが大切です。一人が頑張っても成長しても、良い教育は、環境は一人で完成できるものではありません。子ども達がいて、それを支えてくれる家族がいて、真摯な教育をめざす教師がいて、そして何よりかわいい園児たちがいて初めて一つの教育が完成されます。共に育つことが、まず第一です。子ども達も、自分の力を十分に発揮してくれるでしょう。

しかし、最後にこの世界を作っている一員は自分だということも忘れずにいましょう。これから教育の更なる充実は、私たち一人一人に託されています。自分が良くなって、自分が向上しなくて、自分が不平不満をもっていて、いい教育環境作りが出来るわけがありません。いい集団になるはずはありません。いい環境にするためには、まず自分からです。一人一人が、いい環境にまずなりましょう。そして皆でいい中身を作りましょう。そして親も教師も、子どもとその中で共に育ちましょう。

最初から立派な人間はいないように最初から、一人前の親も教師もいません。でも、一人一人の力は小さくとも、一人一人は自信がなくても、皆で力をあわせればきっと素晴らしい事ができます。一人一人が助け合えば、勇気が湧いてきます。だから、今、あなたは、ここにいるのです。あなたの力が必要なのです。どんなに小さな力でも、あなたがいなければ、今年度の吉塚幼稚園の人としての集団の桶は丸くならないのです。皆でその力を高めあうことができれば、もっと大きな丸い桶としての素晴らしい、エネルギーやパワーになります。

幸せの青い鳥はそれぞれの心の中に必ずいます。そのことに気づける自分がいるかどうかなのです。だからどうぞ、保護者の方も、自分の存在に自信をもって、自分を認めて、前を向いて共に歩いていきましょう。

前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学べばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一歩を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます。目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけていきましょう。すべては、プラス思考です。

でも、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、その人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。「Shoud」から「Will」へ心を転換しましょう。

さあ、新しい一年が始まりです。どんな日々を過ごすかは、全て自分次第です。子ども達のために、保護者の方と共に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。どうか今年一年よろしく願います。